

認識的不同意についての論争

萬屋博喜 (広島工業大学)

私たちは日常生活を送る中で、さまざまな種類の不同意 (disagreement) に直面する。例えば、旅行先の候補や夕食の献立、法廷での口頭弁論や国会の審議など、私たちが不同意に直面する事例は枚挙にいとまがない。さまざまな種類の不同意の中でも、私たちが何を信じるべきかに関する不同意を認識的不同意 (epistemic disagreement) という。本講演で論じたいのは、認識的不同意が現代の英語圏で主に展開されている認識論においてどのように扱われているのか、ということである。

不同意の認識論は、ここ数十年の間に確立した比較的新しい分野であり、現在でも数多くの論文が公刊されている。しかし、入門書やレビュー論文の数が限られているため、不同意の認識論に関心を寄せる人にとっては敷居の高い状況が続いている。さらに、日本国内では一部の例外を除き、不同意の認識論に関して日本語でまとまった情報を得ることが困難な状況にある。こうした認識のもとに、本講演では、不同意の認識論がもつ面白さと射程の広さを伝えることで、これから不同意の認識論について研究を進めようと考えている人に向けた大まかな地図を提供したいと考えている。

本講演の構成は以下の通りである。まず、不同意の認識論がいかなる問いを扱う分野であるのかを明確にする。簡単に述べておけば、不同意の認識論は、不同意が信念 (belief) に対していかなる影響力をもつのかという問いについて研究する分野である。より具体的に言えば、不同意がそれ自体として何かを信じるための証拠 (evidence) とみなされるのかどうか、また、不同意が信念の改訂 (belief revision) を要求するのかどうかという問いを扱う。本講演では、こうした問いを理解するために必要な用語を解説すると共に、不同意の認識論が宗教哲学や倫理学での議論を背景として成立したという歴史的経緯についても簡単に説明したい。

次に、対等者不同意 (peer disagreement) をめぐる論争を紹介する。対等者不同意は、不同意の認識論で最も盛んに論じられてきたトピックである。概して言えば、対等者不同意とは、ある命題 P に関して証拠の面でも知的能力の面でも対等な認識主体が、P に関して不同意の状態に置かれている、ということである。こうした不同意に直面する機会は多くないかもしれないが、少なくともいくつかの事例には当てはまるだろう。例えば、趣味歴の長さが同じくらいの友人どうしの意見対立や、長年にわたって自由意志について論争を繰り広げてきた哲学者どうしの意見対立などを思い浮かべればよい。多くの認識論者がこうした不同意に議論を集中させてきたのは、証拠や知的能力の違いを除外した上で、不同意の純粋な効果を見定めようとしたからである。

では、対等者不同意は、自らの意見を差し控える理由となるのだろうか。この問いをめ

ぐって、不動説 (steadfast view) と譲歩説 (conciliatory view) という二つの見解が対立している。一方で、不動説は不同意に直面した認識主体が自らの信念を改訂する必要はないと主張する。他方で、譲歩説は不同意に直面した認識主体が自らの信念を改訂しなければならないと主張する。不動説と譲歩説の論争は複雑化の一途をたどっているが、本講演では論争の骨子を把握するための整理を試みたい。

以上のような対等者不同意をめぐる論争は、しばらく不同意の認識論における主戦場となってきた。しかし最近では、理想的な状況下での不同意ばかり論じることへの批判が展開されており、非理想的な状況下での不同意への関心が高まっている。証拠や知的能力の面で対等とはいえない主体どうしの不同意はどのように理解すべきか。日常において不同意が生じる要因は何か。こういった問題への関心である。

そこで最後に、非理想的な状況下での不同意がどのような認識的意義をもつのか、という問題について論じたい。特に、認識的不同意と認識的不正義 (epistemic injustice) の関係に焦点を当てることで、不同意の観点から認識の倫理的側面を考察する意義について、参加者の皆さんと共に考えたいと思っている。

文献案内

不同意の認識論について基本的な知識を得たい人は、Brian Frances & Jonathan Matheson, “Disagreement.” In E. Zalta (ed.), *The Stanford Encyclopedia of Philosophy*. Retrieved from <https://plato.stanford.edu/archives/sum2020/entries/disagreement> を読むと良いだろう。

具体的な事例に基づいて不同意の認識論を学びたい人には、Brian Frances, *Disagreement*. Chichester: John Wiley and Sons (2014) を薦める。不同意をめぐる哲学的見解の理論的背景について学びたい人は、Jonathan Matheson, *The Epistemic Significance of Disagreement*. palgrave macmillan (2015) が参考になるだろう。